地域支援だより

アシスト

第６号
令和６年３月１１日　発行
天王みどり学園　地域支援部
ＴＥＬ：018-870-4611
ＦＡＸ：018-870-4612

心のバリアフリー　～障害理解授業～

本校では、障害の有無にかかわらず、誰もが互いに尊重し合える共生社会の実現に向けて、特別支援教育や障害への理解を目的とした障害理解授業を推進しています。学校間交流や居住地校交流の事前学習として行ったものもあれば、道徳や総合的な学習の時間等と関連づけられるように学年に合わせたプログラムに沿って行われた授業もあり、小・中学校合わせて 10 校 20 回行いました。

疑似体験やクイズ、ゲームなども盛り込み、楽しみながら多様性や自他を尊重する気持ちを学ぶ機会になればと考えています。

子どもたちの感想

フラフープリレーで友だちがうでを上げてくぐりやすくしていて、いいなと思ってわたしもまねしました。みんなのいいところを見つけていきたいです。（小１）

交流するときは、なかよくなるポイントをめあてにして、たくさんなかよくしたいです。（小３）

手話で「こんにちは」などのあいさつゲームやクイズがたのしかったです。（小２）

わたしも苦手な音やできないことがありますが、そういうのもすべて認め合うのが大切だとあらためて感じました。（小６）

今年度は、実施する学校の先生方と一緒に授業づくりを進めるために事前の打ち合わせや役割分担を大事にしてきました。ご協力ありがとうございました。

そして、「障害」という言葉を使わずに多様性の一つとして伝えていきたいと考え、本校では来年度から「障害理解授業」改め**「心のバリアフリー授業」**に呼び名を変える予定です。どうぞよろしくお願いいたします。

寄り添う気持ちを大切に　～ボランティア講座～

青年学級や夏休みの部活動の機会に、高校生を対象とした障害理解の講座とボランティア体験を実施しました。参加した高校生の感想を紹介します。

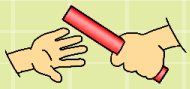
今までは障害がある人を助けるという考えだったが、今回の講座で、障害などをマイナスに捉えず、できること得意なことを生かすというプラスの面で捉えて支援していきたいと思った。

分かり合うことは簡単ではないかもしれないけれど、寄り添う気持ちを大切にしたいと思った。

みなさんと体を動かすことにより、楽しさを共有することができた。

みんなで笑い合って声を掛け合う。そんな活動ができて最高に楽しかった。

今行っている支援や校(園)内チームでの取組を、ぜひ次年度へ…



今年度、訪問させていただいた地域の園・学校で、幼児児童生徒のみなさんの安心感や学習活動への主体的な参加に向けて、先生方が工夫して進められている取組が様々ありました。「ぜひ、今、行っている支援を続けて、次につないでいっていただければ…！」とお伝えさせていただいた支援や校（園）内チームでの取組の一部をご紹介します。

＜集中し続けることに難しさが見られる児童生徒への支援＞

○楽しい学級のルールを設定

次の学習活動に向かう際、みんなで数唱をしてポーズ！

→みんなと一緒に気持ちを切り替える機会に

○集中しやすい座席の配置

座席を黒板と先生が見えやすい前方正面へ

→学習に向かい続ける姿へ

＜学習の理解のしやすさ、参加のしやすさにつながる支援＞

○視覚的な情報提示の工夫

口頭での説明だけでなく、手本や実物、イラスト、写真、動画、文字など視覚的な情報提示を工夫→わかって行動する姿へ

○物を操作する活動の設定

図形を動かす、付箋紙に考えを書いて仲間分けをするなど、物を操作する活動を学習活動の中に設定

→「考える」「考えを表す」学習活動への参加のしやすさへ

○ペアの友達と考えを合わせる学習活動の設定

友達の考えをまねることから始めたり友達の考えをヒントにして考えたりする機会を設定

→「考える」学習活動への参加の機会に

＜校内チームでの支援＞

○生徒の得意な学習を大切にした働き掛け

生徒の得意とする学習での様子を、担任の先生と学年主任の先生が情報交換し、共有

→先生方の生徒を認める関わりや働き掛けが、生徒の学校生活や学習への意欲に！

○気になる行動の背景を共有

生徒の行動を「こういう思いで～しているのかな」という視点で捉え、代替の方法を提案したり見守ったりする働き掛けを、担任の先生や関わる先生方が共に実践

→先生方の対象生徒への関わりが周りの生徒たちにも伝わり、対象生徒のよさと苦手さを認める学級の雰囲気の醸成へ

＜研修の工夫＞

校長先生のリーダーシップの下、特別支援教育コーディネーターの先生が全校の先生方を対象に、「学校におけるユニバーサルデザイン」について研修を計画。全ての児童生徒の「わかる」「できる」に向けて、先生方が様々な工夫を進められていた。

① 講義「発達障害の理解」「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり」（８月）

② 全校の先生方がユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を実践（８～12 月）

③ 授業実践の発表、協議（１月）

他にも、支援の仕方や支援体制において悩まれているケースや試行錯誤を積み重ねていらっしゃるケースがありました。お子さんの様子や行動の背景について考えられることを検討したり、今、お子さんができそうなこと、学校ができそうなこと、家庭ができそうなことを整理したりすることに向けて、引き続き、本校のセンター的機能をご活用いただければと思います。次年度も、よろしくお願いいたします。

（文責：小野直子）